実践発表【中学校・表現】

思いを繋ぐ

ー長中ソーランを彩る大漁旗のアイデアと表現ー

岩手県久慈市立長内中学校　田中　桃子

１　提案趣旨

本校では､「長中ソーラン」を伝統の一つとし、校内外における演舞が生徒たちにとって強い誇りと責任感を象徴する取り組みとなっている。

本提案は、ソーラン演舞において後輩へ継承する思いや誇り、願いを「視覚化」する大漁旗のデザイン・表現を題材とした。

単に装飾的な表現に終わらせるのではなく、「どんな思いを繋ぐのか」という明確な目的意識をもち、形、色、構成などの造形的な表現効果を考え抜く力を養うことを本実践の大きなねらいとした。

２　実践の概要

（１）目的意識の醸成（総合的な学習の時間との関連）

総合的な学習の時間と連携し、長中ソーランのこれまでの歩みや、地域での発信・交流活動について理解を深めることで、受け継がれてきた思いを探求した。後輩へ残したいメッセージや自分たちの誇りを言葉として整理することで、表現活動の土台となる「目的意識」と「明確な主題」を醸成させた。

（２）「思い」を視覚化するシンボルの選択

自らの思いや願いを最もよく象徴する「意味をもったシンボル（モチーフ)」を選定した。演舞を彩る旗としての視認性や視覚効果を意識しながら、意図が伝わるようなアイデアスケッチに取り組んだ。

（３）思考を深める「相互鑑賞」

アイデアスケッチの段階で、中間相互鑑賞を実施した。「GOOD（良い点)」と「HINT（改善のアドバイス)」を具体的に伝え合うことで、自分のアイデアを客観的に見つめ直し、表現（構配色）を修正・深化させた。

（４）全校掲示による価値づけと鑑賞・選考完成したデザイン案の全校掲示を行った。各自の思いと試行錯誤のプロセスが共有されたうえで、作品鑑賞と投票を行い、実際に大漁旗として採用する候補案を決定した。

３　成果と課題

（１）成果

・総合的な学習との連携により「伝えたい思い」が明確になり、根拠をもったシンボル選びや効果的な構成・配色の工夫がみられた。
・相互鑑賞を取り入れたことで、客観的な視点から自らのアイデアを修正・発展させ、向上させることができた。
・全校掲示により、投票結果に関わらず全員の「思い」が承認され、学校全体へ届けることができ、達成感が得られた。

（２）課題

・デザインの完成度だけでなく、相互鑑賞を通じた修正や思考の変容プロセスを丁寧に見取り、評価する必要がある。
・本実践全体を通して、造形的な視点・根拠をもって鑑賞し、選択理由を言語化させる指導の工夫が必要だと感じた。



アイデアを修正している生徒の様子